

〈資料〉

高経大 + 高経附「高大コラボゼミ」 卒業生アンケート調査

矢野 修 一*

【解説】

はじめに

本資料は、公立大学法人「高崎経済大学」と高崎市立「高崎経済大学附属高等学校」（以下、それぞれ高経大、高経附と略記）の間に12年にわたり実施されてきた「高大コラボゼミ」を経験し、両校を卒業した人たちに行ったアンケート調査の結果である。

高大コラボゼミ（以下、コラボゼミ）とは、高経大・高経附の教員・学生・生徒が協力しながら、ゼミナール形式の少人数グループ学習を進める「高大連携」プログラムである。高校生と大学生が日常とは異なる環境のもと、「日本企業のケーススタディ」を通じて「経済・経営の専門的知識」「英語力」「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」「リーダーシップ能力」などを高めるとともに、「進路・キャリア意識」の涵養を図ることを目指している。

コラボゼミは、2010年4月、高経大経済学部・矢野ゼミナール3年生と高経附3年1組生徒との間で始まり、現在に至っている。この間、高経附は、2014年度から18年度まで文部科学省SGH（スーパーグローバルハ

イスクール）に選定され、今は高崎市独自のTSUBASAプロジェクトのもと、特色ある教育を行っている。

コラボゼミは、SGH・TSUBASA両プログラムの中核的コンテンツでもあり、12年間の参加者は、高経附3年1組の生徒が439人、高経大矢野ゼミ生が166人に上る（現在は、高経附2年1組の生徒と高経大・阿部圭司ゼミナール3年生による、日本経済新聞社主催の「ストックリーグ」参加を軸としたコラボゼミも展開中である。近年、高経附3年1組の生徒は、2年1組でコラボゼミを経験している場合がほとんどである）。

アンケートの目的

「高大連携」と言えば、良質の入学生を確保したい大学と、生徒をとにかく大学に送り込みたい高校との間で行われるものとの認識がいまだ一般的かもしれない。しかしながらコラボゼミでは、入学試験という「高大接続」部分を無視することはないものの、成果を大学入学実績で測ることは、開始当初から念頭になかった。それよりはむしろ、せっかく入学した大学を中退する学生、就職後3年以内に辞める大学卒業生、進学も就職もしない大

* 高崎経済大学経済学部経済学科・教授

学卒業生（いわゆるニート）がそれぞれ増加しているという社会情勢を踏まえ、「人生」というスパンで学生・生徒の「学び」の意識、進路・キャリア意識を育むことを目標としてきた。

なかなか「定量化」しにくい目標であるが、コラボゼミ開始後、10年以上が経過し、今では国内外、社会の第一線で活躍しているコラボゼミ修了生が数多くいる。今回のアンケートは、コラボゼミを修了した高・大の卒業生（2021年3月までの卒業生は高経附399人、高経大139人）に対し、高・大で若干内容は異なるが、「今、振り返ってみて、あなたにとってコラボゼミとは何だったのか」を尋ね、アンケート結果を今後のコラボゼミに生かす目的で行われた。

アンケートには、少し背伸びをして大学での学びを体験し、日頃意識しない「経済」の現場を垣間見た元・高校生、「教えることを通じて学ぶ」とともに、ビジネスパーソンとの直接的やりとりで示唆を得た元・大学生の声が反映されている。

コラボゼミ3本の柱

新型コロナ（COVID-19）の影響を受け、2020年度、2021年度は修正を余儀なくされたものの、高校生と大学生が6グループに分かれ、海外戦略を中心に日本企業のケーススタディを行うコラボゼミの大枠は、12年間変わっていない。それは3つの柱からなる。

まず第1に、日本企業の海外戦略に大きな影響を与える「為替レート」の研究である。企業の海外戦略を左右する円ドルレートに関心を持たせるため、高校生・大学生とも、日本経済新聞社が2001年以降、毎年開催している「円ダービー学生対抗戦」にグループで参加してきた。

円ダービーは、主催者指定期間における月末の円ドルレートを数次にわたり予想し、実際値との乖離差によって順位を決めるコンテストである。企業戦略に影響を与える為替レート、為替レートを左右する国際政治経済状況に関心を持たせるためだけではなく、企業研究に向けたグループ学習、話し合いの手始めとして、円ダービー参加を重視してきた。

第2に、日本を代表する6企業のケーススタディと企業訪問である。毎年、高校生・大学生が6つのグループに分かれて、企業のホームページ、新聞・専門誌のニュースや四季報、論文などで、各企業の沿革、中期経営計画、同業他社を含めた市場の動向などを共同で調べ上げる、そうした研究成果をもとに「企業の本社を訪問し、担当者にインタビューを行う」というコラボゼミのメインコンテンツである。

質問の仕方、その内容で、相手をしてくれるビジネスパーソンはこちら側のレベルが分かかってしまうと教員から言われれば、恥をかかないためだけでも、メンバー全員、きちんと調査し、分析せざるをえない。大学生にとっては、特にそうである。チューターとして緻密なケーススタディを主導したうえ、企業の本社を訪問し、高校生とともにインタビューを行うことは、大学3年生にとって、結果的に「就職活動の予行演習」にもなってきた。

さらに、こうしたプロセスを経て得られた研究成果を、大学・高校の教員、高校生、大学生、保護者、市教委関係者、マスコミ関係者、一般市民など、数百名にのぼる聴衆の前で発表するのが課題である。プレゼンの主役となる高校生、それをサポートする大学生とも、互いに協力し真剣に取り組まざるをえない環境を整えてきた。

そして第3の柱は、学生・生徒による英語

学習の推進である。高校生は6月の実用英語検定試験、大学生は5月のTOEICに向けて、英語学習を進め、それをコラボゼミの共通課題として取り組んできた（この間、高経附では英検の在校生全員受験が制度化された）。高校や大学で英語を学ぶ意味を認識させるうえでも、そして「日本企業の海外戦略」をテーマとする以上、コラボゼミでは、ほとんどの企業で必要条件になりつつある英語能力の向上は外せないという趣旨で、柱のひとつに据えてきた。

上記のとおり、企業本社への直接訪問・インタビューは、コラボゼミのメインコンテンツであるが、2020年度・2021年度は、新型コロナウイルス禍に見舞われ、オンラインでのインタビューに切り替えざるを得なかった（対面式のコラボゼミが実施できない場合もあり、時間の関係上、この2か年は、円ドルレートをテーマに十分な話し合いをすることもかなわなかった）。ただ、アンケート対象となった大学卒業生の全員、高校卒業生のうち2021（令和3）年3月卒業生以外は、本社訪問・インタビューを経験できた。

アンケートに関する補足説明

アンケートは、以上のようなコラボゼミについて行われたものなので、後掲アンケートの諸項目、結果に関しては、一覧していただければ内容を把握できると思われるが、一部について補足説明をしておこう。

まず大学卒業生への「Q1 ゼミ何期生ですか」については、矢野ゼミが1994年3月卒業の1期生から始まっているので、19期生は2012年3月卒業、28期生は2021年3月卒業である。

大学卒業生のQ10、高校卒業生のQ12にあ

る「『企業訪問・インタビュー』の後」「訪れた施設・企業見学について」とあるのは、午前中の本社訪問・インタビューの後、午後に行われていた施設見学についての質問事項である。午前中、6グループに分かれて企業を訪問したのち、午後は、東京証券取引所、ヤマト運輸の羽田クロノゲート、アドミュージアム東京など、毎年場所を変えながら、全員が現地集合し、施設を見学した（2021年3月の高校卒業生は未経験）。

アンケートは、2021年の9月から10月にかけて行った。大学卒業生については139人中106人（回答率76.3%）、高校卒業生については399人中103人（同25.8%）から回答を得た。

高校・大学卒業生とも、質問事項の最後にある「自由記述欄」については、明らかな誤字・脱字以外は修正せず、寄せられたコメントをそのまま掲載した。

コラボゼミに関しては、これまでも拙稿（矢野修一「高大コラボゼミの意義と課題」『産業研究』第46巻第2号、2011年、同「高大コラボゼミの相乗効果—双方向の高大連携の試み」高崎経済大学附属産業研究所編『高大連携と能力形成』日本経済評論社、2013年所収）で論じてきたが、今回のアンケートへの回答内容も踏まえたコラボゼミの紹介・分析・展望を、高崎経済大学地域科学研究所のブックレット⑦『高崎からのグローバル人材育成—高大コラボゼミの12年』（近刊）にまとめたので、あわせて参照願いたい。

なお、アンケートデータの取りまとめについては、高崎経済大学経済学部経済学科4年の小野瑠唯さんの支援を受けた。ここに感謝の意を表したい。

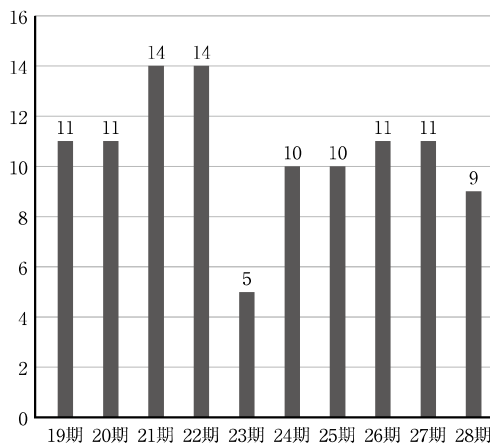
小野さんは矢野ゼミ29期生であるとともに、高経附3年1組の卒業生でもある。コラボゼミを高校生・大学生両方の立場で経験し

た。2022年4月からは社会人となる。多くの先輩同様、コラボゼミの経験を活かし、実社会で活躍することを願ってやまない。

★ [高経大・矢野ゼミ卒業生アンケート]

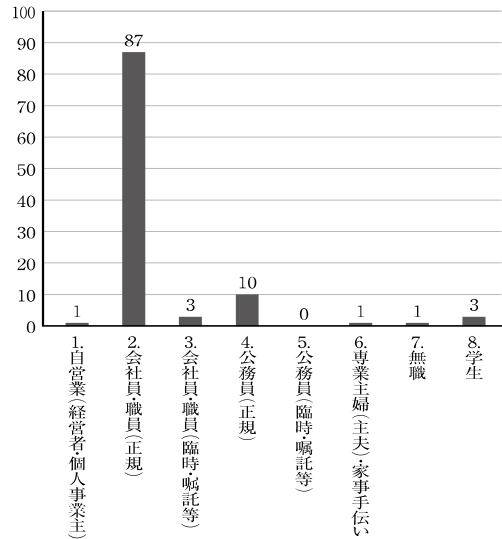
1 ゼミ何期生ですか

19期	11
20期	11
21期	14
22期	14
23期	5
24期	10
25期	10
26期	11
27期	11
28期	9



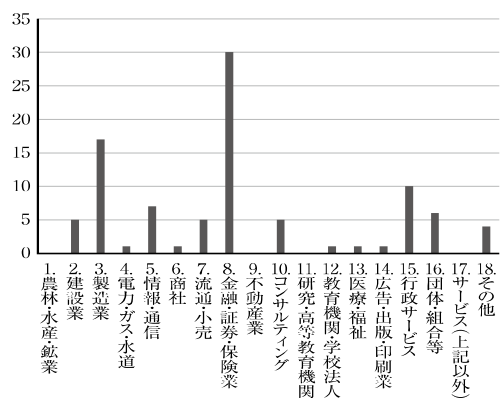
2 現在の職業

1.自営業(経営者・個人事業主)	1
2.会社員・職員(正規)	87
3.会社員・職員(臨時・嘱託等)	3
4.公務員(正規)	10
5.公務員(臨時・嘱託等)	0
6.専業主婦(主夫)・家事手伝い	1
7.無職	1
8.学生	3



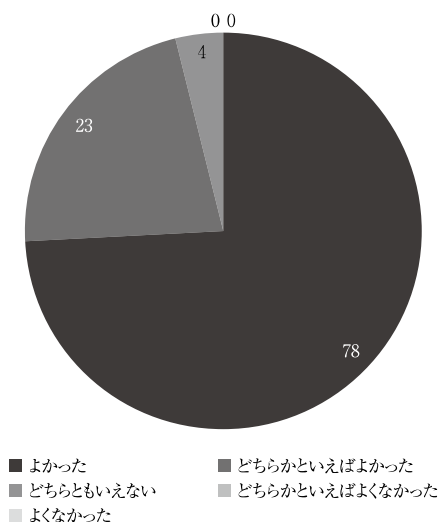
3 勤務先の業種

1.農林・水産・鉱業	0
2.建設業	5
3.製造業	17
4.電力・ガス・水道	1
5.情報・通信	7
6.商社	1
7.流通・小売	5
8.金融・証券・保険業	30
9.不動産業	0
10.コンサルティング	5
11.研究・高等教育機関	0
12.教育機関・学校法人	1
13.医療・福祉	1
14.広告・出版・印刷業	1
15.行政サービス	10
16.団体・組合等	6
17.サービス(上記以外)	0
18.その他	4



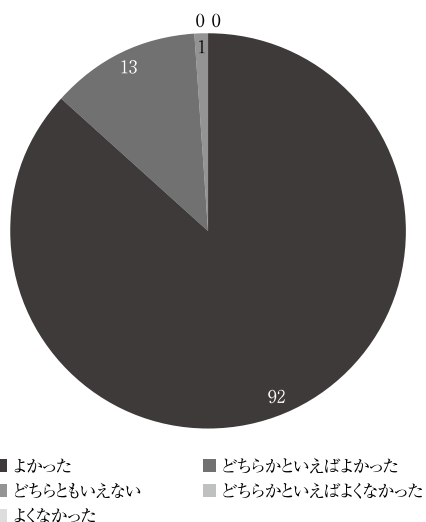
4 高校生とともに取り組んだ「円ダービー」について

よかった	78
どちらかといえばよかった	23
どちらともいえない	4
どちらかといえばよくなかった	0
よくなかった	0



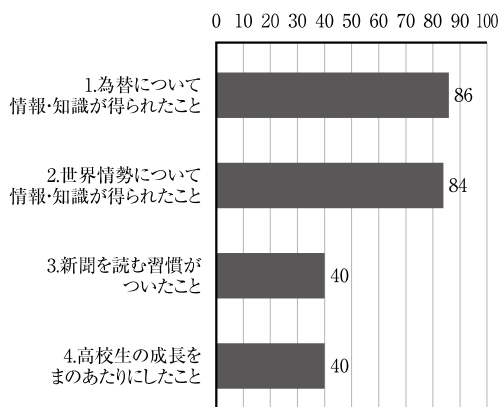
6 高校生とともに取り組んだ「企業研究」について

よかった	92
どちらかといえばよかった	13
どちらともいえない	1
どちらかといえばよくなかった	0
よくなかった	0



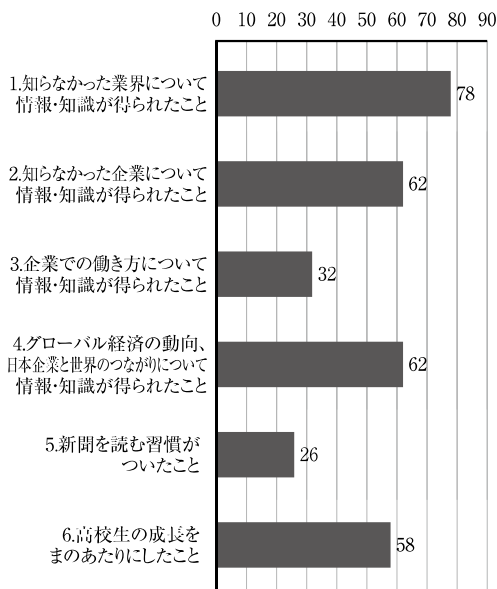
5 高校生とともに取り組んだ「円ダービー」についてよかった点（複数回答可）

1.為替について情報・知識が得られたこと	86
2.世界情勢について情報・知識が得られたこと	84
3.新聞を読む習慣がついたこと	40
4.高校生の成長をまのあたりにしたこと	40



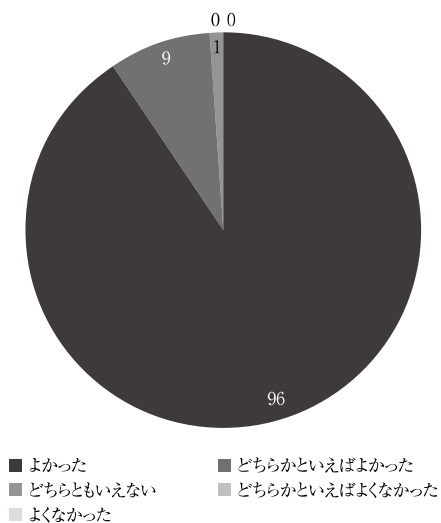
7 高校生とともに取り組んだ「企業研究」についてよかった点（複数回答可）

1.知らなかった業界について情報・知識が得られたこと	78
2.知らなかった企業について情報・知識が得られたこと	62
3.企業での働き方について情報・知識が得られたこと	32
4.グローバル経済の動向、日本企業と世界のつながりについて情報・知識が得られたこと	62
5.新聞を読む習慣がついたこと	26
6.高校生の成長をまのあたりにしたこと	58



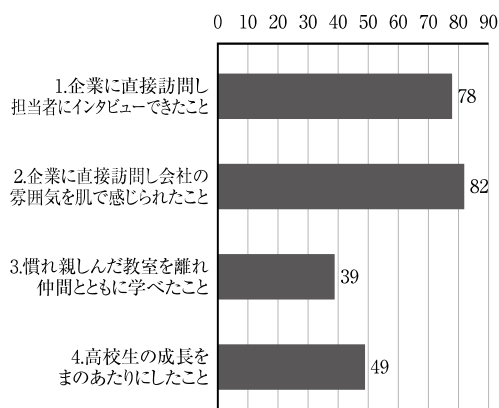
8 高校生とともにに行った「企業訪問・インタビュー」について

よかった	96
どちらかといえばよかった	9
どちらともいえない	1
どちらかといえばよくなかった	0
よくなかった	0



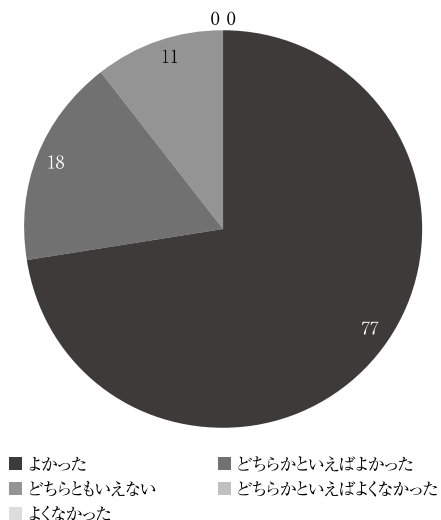
9 高校生とともにに行った「企業訪問・インタビュー」についてよかった点（複数回答可）

1.企業に直接訪問し担当者にインタビューできたこと	78
2.企業に直接訪問し会社の雰囲気を肌で感じられたこと	82
3.慣れ親しんだ教室を離れ仲間とともに学べたこと	39
4.高校生の成長をまのあたりにしたこと	49



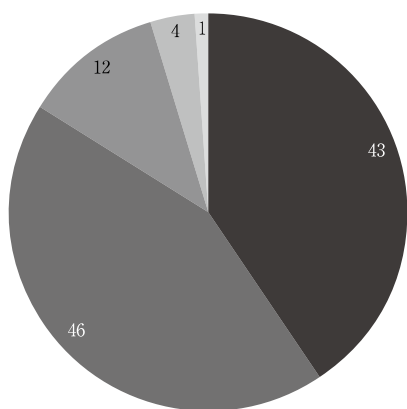
10 「企業訪問・インタビュー」の後、高校生とともに訪れた施設・企業見学について

よかった	77
どちらかといえばよかった	18
どちらともいえない	11
どちらかといえばよくなかった	0
よくなかった	0



11 高大コラボゼミを通じて「論理的思考能力」を

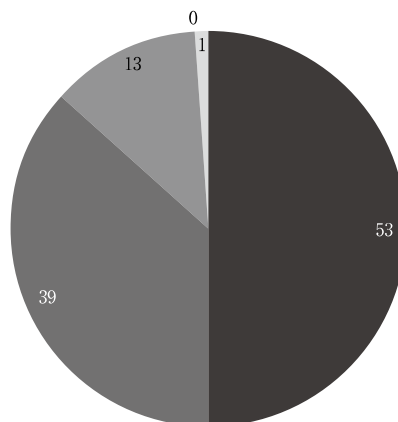
得られた	43
どちらかといえば得られた	46
どちらともいえない	12
どちらかといえば得られなかった	4
得られなかった	1



■ 得られた
 ■ どちらかといえば得られた
 ■ どちらともいえない
 ■ どちらかといえば得られなかった
 ■ 得られなかった

13 高大コラボゼミを通じて「コミュニケーション能力」を

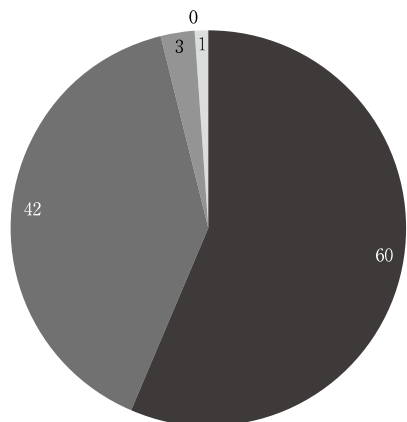
得られた	53
どちらかといえば得られた	39
どちらともいえない	13
どちらかといえば得られなかった	0
得られなかった	1



■ 得られた
 ■ どちらかといえば得られた
 ■ どちらともいえない
 ■ どちらかといえば得られなかった
 ■ 得られなかった

12 高大コラボゼミを通じて「情報収集・分析能力」を

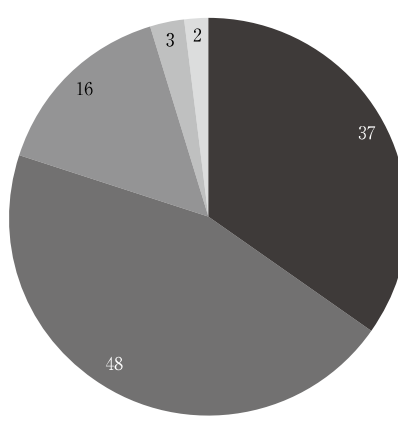
得られた	60
どちらかといえば得られた	42
どちらともいえない	3
どちらかといえば得られなかった	0
得られなかった	1



■ 得られた
 ■ どちらかといえば得られた
 ■ どちらともいえない
 ■ どちらかといえば得られなかった
 ■ 得られなかった

14 高大コラボゼミを通じて「プレゼンテーション能力」を

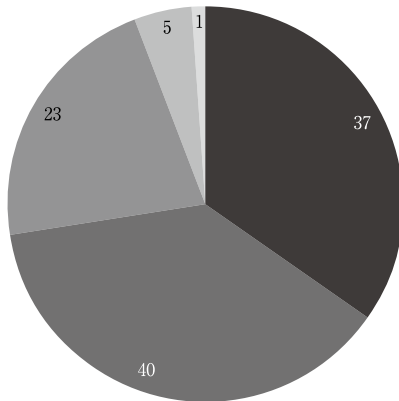
得られた	37
どちらかといえば得られた	48
どちらともいえない	16
どちらかといえば得られなかった	3
得られなかった	2



■ 得られた
 ■ どちらかといえば得られた
 ■ どちらともいえない
 ■ どちらかといえば得られなかった
 ■ 得られなかった

15 高大コラボゼミを通じて「リーダーシップ能力」を

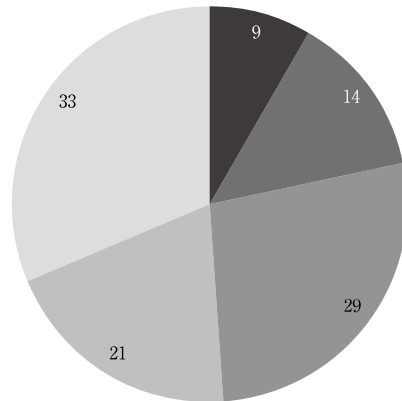
得られた	37
どちらかといえば得られた	40
どちらともいえない	23
どちらかといえば得られなかった	5
得られなかった	1



■ 得られた
 ■ どちらかといえば得られた
 ■ どちらともいえない
 ■ どちらかといえば得られなかった
 ■ 得られなかった

17 卒業論文のテーマ設定に高大コラボゼミが与えた影響について

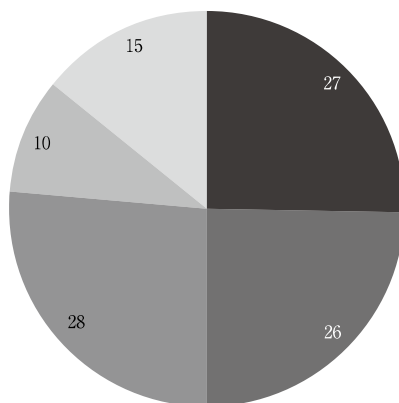
あった	9
どちらかといえばあった	14
どちらともいえない	29
どちらかといえばなかった	21
なかった	33



■ あった
 ■ どちらかといえばあった
 ■ どちらともいえない
 ■ どちらかといえばなかった
 ■ なかった

16 進路・職業の選択に高大コラボゼミが与えた影響について

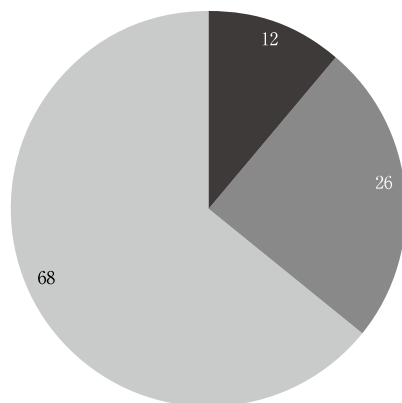
あった	27
どちらかといえばあった	26
どちらともいえない	28
どちらかといえばなかった	10
なかった	15



■ あった
 ■ どちらかといえばあった
 ■ どちらともいえない
 ■ どちらかといえばなかった
 ■ なかった

18 大学卒業後、現在までの「英語学習」について

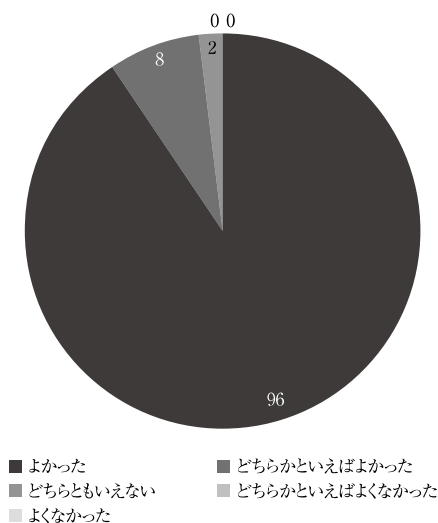
1.現在も続けTOEICなどを定期的に受検している	12
2.現在も様々な形で続けているが、TOEICなどを定期的に受検していない	26
3.大学卒業後、英語学習から遠ざかっている	68



■ 1.現在も続けTOEICなどを定期的に受検している
 ■ 2.現在も様々な形で続けているが、TOEICなどを定期的に受検していない
 ■ 3.大学卒業後、英語学習から遠ざかっている

19 学生時代に高大コラボゼミに参加して

よかった	96
どちらかといえばよかった	8
どちらともいえない	2
どちらかといえばよくなかった	0
よくなかった	0



20 「高大コラボゼミ」についての意見や要望など（自由記述）

- ◎コラボゼミを通し、高校生の成長を目の当たりにし、自身の進路を考えるきっかけになったので大変有意義な時間でした。
- ◎高校生に教える立場としての自覚と企業の海外戦略を知る良いきっかけになった
- ◎最高の経験となりました。これからも絶えず事なく、続けてください。
- ◎人生の大きな岐路を迎える受験生の貴重な時間をいただいてもとに学べる機会は大学生にとっても大きな意義があった。高校生側が想定を超える質問や考え方を見せてくれるので、我々も絶対に負けられないような準備を心がけられた。高校生大学生ともに大きなメリットのある活動であった。
- ◎企業の情報や学問の知識はもちろん、メンバーと議論をする中でコミュニケーション能力やプレゼン能力などを身につけること

ができた。

- ◎私は対面で高校生と関わり、本社訪問をすることができたのでとてもいい経験になりました。この高大コラボゼミは対面で得られるものが大きいと思うので、できる範囲で対面で実施できたらいいなと思います。
- ◎私の代では高校生がくじ引きを行い大学生のペアを決めていたが、高校生、大学生共にそれぞれが興味のある企業を事前に決めておいてからグループを作った方が、双方のモチベーション維持に役立つ感じられた。もちろん現状のペア決めやり方においては、大学生側は興味のない分野を学べ、視野を広げることができるといった利点もあるが、これは大学生側の力量（能動的に学べるか）次第といったところが非常に大きく、下手をしたら高校生の足を引っ張りかねない。
- ◎コラボゼミをきっかけに、為替の値動きを頻繁に確認するようになりました。様々な因子によって変化する値なので、まだまだ予想はうまく行きませんが、見るのが楽しいと感じ、今も続けています。また、企業研究で分析した会社は今でも株価や諸情報を確認し注目しています。今後も成長や変化が楽しみな企業に訪問できた経験は一生の思い出です。記事を調べる、毎日のニュースを確認するといった社会人としての当たり前を習慣化するきっかけとなったのは、コラボゼミだったと思います。
- ◎知識（用語？）を固いまま飲み込むのではなくて説明できるように噛み砕く習慣ができた。
- ◎高校生と共に活動することで緊張感が生まれ、より本腰を入れて取り組むことが出来た。また、B to B企業についての視野が広がり、その後の就活や就職後にもその経験

- を活かすことが出来た。濃密なゼミ活動に繋がる非常に良い経験であった。
- ◎高大コラボゼミで出会った学生とは10年以上の付き合いになりますが、今でも時々連絡をとっています。お互い社会人となり、他の分野で活躍されている状況に刺激をいただいております。
- ◎大学3年までは、勉強で熱心になったことはないと思います。それは、勉強というのはあくまでも自分のためであり、ある程度の成績を取れば、それ以上勉強しなくてはやらなくても良いと思ったからです。高大コラボゼミは違いました。高大コラボゼミでは、最低限のことしかやらなかったら、高校生が企業調査で燃えることがなく、企業に訪問しても面白いプレゼンテーションができず、もしかしたら大学もつまらないと思ってしまうかもしれません。そんなことになったら、ゼミに顔を出す自信がなくなると思い、とりあえず頑張るか！と決めました。そこで、高校生と初めての勉強会をしたら驚きました。思った以上熱心で、企業をしっかりと調べていて、理解が早かったです。高校生に質問を投げかけると、賢い答えが出たり、意味不明な答えが出たり、とても答えられない難しい質問が向こうから返ってきたりしました。そのやりとりが楽しくてたまりませんでした。そこから、高校生と大学生が良いコラボになって、企業に訪問した時に鋭い質問が出ていて、最後のプレゼンテーションも良い感じで終わりました。このように振り返ると、なぜ高大コラボゼミがこれほど良い思い出になったかという、やはり、勉強の楽しさを知ったからだだと思います。勉強は自分のためだけにすると面白くないけど、周りの人を巻き込めば、とんでもなく盛り上がることがあります。高大コラボゼミはその貴重な経験になりました。
- ◎在学中、社会人になりたて、社会人になって数年…思い出すたびに捉え方がかわる、あの時からの自分の成長をはかる、そんな経験となっています。
- ◎高大コラボゼミを通じて社会人基礎力の形成に繋がったと思います。「高校生と一緒に学ぶこと」が本プログラムの肝だと捉えており、苦労しながらも手探りで取り組んだと記憶しています。取組にあたって、まずは自分（大学生側）の理解が必要となり、次に高校生と目線を合わせる必要がありました。その実現に向けては、2つのことを意識して取り組んでいました。①平易な言葉に置き換えること（アウトプット）、②情報の取りどころ（インプット）。①については、専門用語や難解な言葉を相手がどのように受けとるか、理解できるか、考える必要がありました。お互いの興味関心のアンテナを拡げながら、適切に例えること、分かりやすく言い換えることなど、状況に応じた表現を選びながら理解を深めることに努めました。②については、①の前提として、大学生側には物事の深度ある理解、本質的な理解が求められ、そのための情報収集にも意識して取り組みました。具体的には新聞やインターネットによる「全体像を掴むための情報収集」、書籍や論文による「理解を深めるための情報収集」です。肯定的な意見、批判的な意見など複数の根拠を準備することに努めました。以上の2点に意識して取り組んだ経験は社会人になってからも、日々の業務に活かされています。会社での資料づくり、相手に伝わる内容説明など、業務ごとの「緊急性と重要性」を判断して優先順位をつける習慣が身に付い

- たと思います。長くなりましたが、高校生、大学生、関係者の成長に繋がる高大コラボゼミが益々発展し、更に拡大していくことを祈念しております。
- ◎訪問先を企業に限定せず、公益的な研究機関やNPOなども対象に入れていただけると、学生の視野がより広がるのではないかと思います。
 - ◎論理的思考力が得られた、コミュニケーション能力が得られたと言った事ではなく、大学生・高校生関係なく、人間力が備わる時間だったと思います。特に高校生にとっては、受験勉強では得られない学びがあったかと思えますし、大学生においては自身のコミュニティでは得ることの出来ない体験が得られたのではないのでしょうか。とても思い出深い取り組みでした。今後の発展をお祈りいたします。また、コラボゼミ単体への寄付金など有ればお力添えさせていただきます。
 - ◎「教える」、「示す」ことで責任感のある学びを体感できました。また、それぞれ本番と言えるタイミングがあることで、考え抜く力が養われたように思います。ありがとうございました。
 - ◎高大生達みんな良い子ばかりでびっくりしました。高校生が3年生で受験で忙しい時期なのが少しかわいそうな気もしていたので、2年生や1年生対象だと良いのではないかな～という気もします。1、2年生の早い時期に色々な経験や人に会うことで進路選択の幅も広げやすいのではと思います！
 - ◎基本的にどれもやってよかったと思っています。
 - ◎高崎経済大学の財産とするべし
 - ◎コラボゼミで経済の動向分析や企業研究を学んだことで、就活活動の情報収集もスムーズに行うことができた。学生の時に企業訪問できたことは非常に良い経験となった。
 - ◎後輩と共に学ぶという経験は学生時代はなかなかないので、非常に刺激になった。高校生の成長もそうですが、自分も成長できる良い機会だった。
 - ◎法人の担当者に質問できたり実際に訪問をしたりすることなどは、高大コラボゼミのような機会がないとできないことだと思いますので、とても良い経験になったと思います。
 - ◎普段とは逆に、大学生が高校にお伺いする機会などがあると相互理解が深められ、何気ない話題作りなどにもなったと思う。
 - ◎高校生を相手にする難しさはあったが、人を教える難しさや準備の大切を知った。また社会人と話す機会を得られて就活の面接をイメージできた。
 - ◎当時は調べ物や準備等々、忙しかった記憶がありますが、今思えば就職活動が始まる前に企業や業界のことを調べる良い機会、きっかけだったと思います。企業を訪問することで「実際にはこんな感じ」というのを知ることができました。今後も続けてほしいです。
 - ◎記憶が曖昧で実施されたら恐縮ですが、例えばコラボゼミ後、大学生と高校生のそれぞれの特に印象に残った学びや教訓、改善したいこと、今後チャレンジしたいことを1枚の感想アンケートで簡単にまとめ、全員分を1つのPDFファイル（/紙冊子）で共有できたら見える宝になるかもしれません。また、高大コラボの同窓会もやりたいです。
 - ◎高校生、大学生のうち一般企業の担当者と話す機会があるのは社会経験として非常

に大事だと思います。

◎高校生とゼミをすることで、大学生としてリードしなければならないという意識が芽生え、積極的にゼミに参加することができました。また、成果発表会では、高校生たちの成長した姿が見られて感動しました。

◎貴重な機会をいただきました。

◎基本的な企業分析の力、方法が身につけていなく、半端な分析であったと記憶している。

◎自分自身の成長につながったと思うので継続して欲しいと思います。

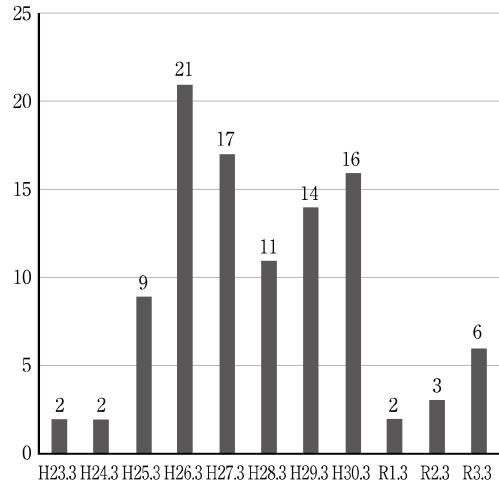
◎私は造船企業についての研究を行いました。コラボゼミがなければ、一生研究することはなかったと思います。ゼミのイベントとは言え、研究後に訪問出来るというのは、かなりいい経験でした。今後ともこのような貴重な体験ができる体制が続くことを陰ながらに期待しています。

◎高校生の成長だけでなく、自分自身や相手の成長だったりを目の当たりにし、全体的に大きな成果を得られた良い企画だったと思う。私自身は卒論テーマや就職活動に影響したかというより、コミュニケーション能力や協調性等、人として必要なものを学べた良い機会であった。

★ [高経附 3 年 1 組卒業生アンケート]

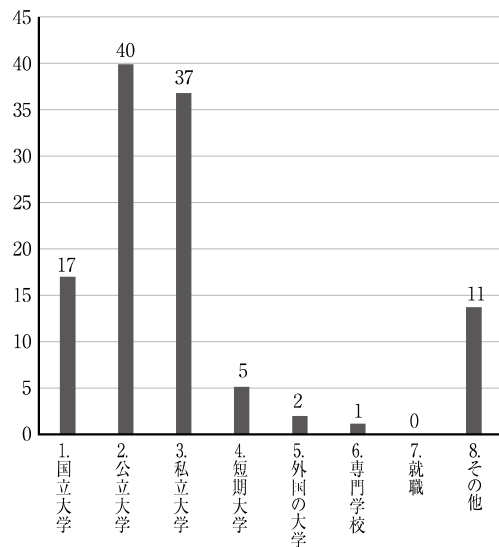
1 卒業年次はいつですか

H23.3	2
H24.3	2
H25.3	9
H26.3	21
H27.3	17
H28.3	11
H29.3	14
H30.3	16
R1.3	2
R2.3	3
R3.3	6



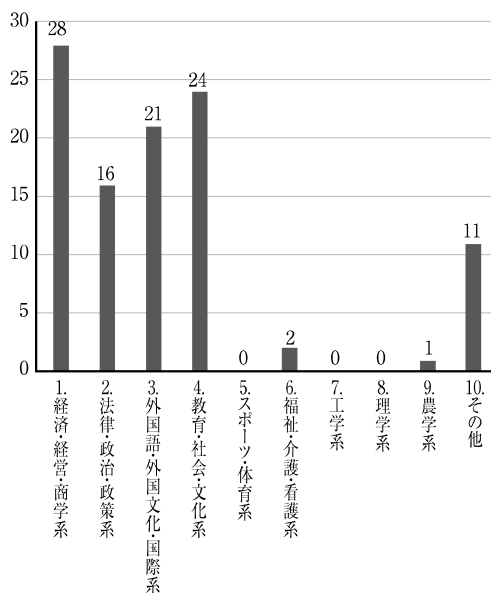
2 高校卒業後の進路

1.国立大学	17
2.公立大学	40
3.私立大学	37
4.短期大学	5
5.外国の大学	2
6.専門学校	1
7.就職	0
8.その他	11



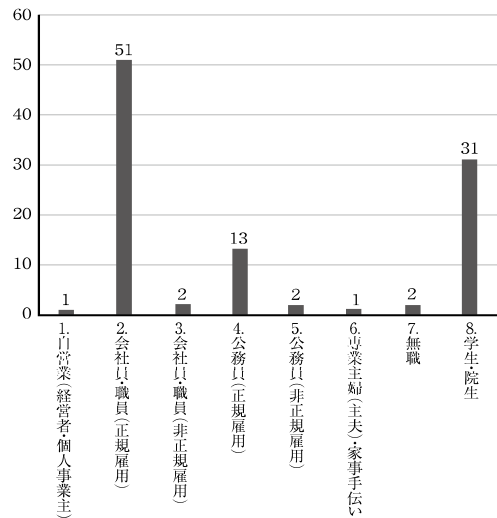
3 「2」で「1～6」と回答された方の入学学部・コース

1.経済・経営・商学系	28
2.法律・政治・政策系	16
3.外国語・外国文化・国際系	21
4.教育・社会・文化系	24
5.スポーツ・体育系	0
6.福祉・介護・看護系	2
7.工学系	0
8.理学系	0
9.農学系	1
10.その他	11



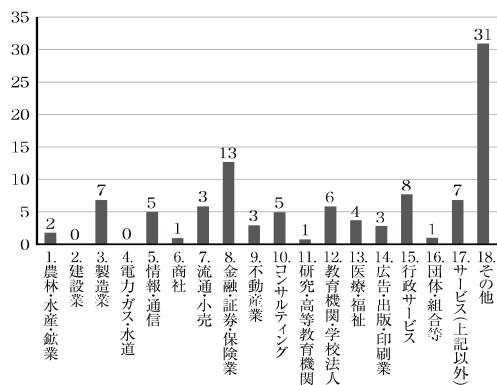
4 現在の職業など

1.自営業(経営者・個人事業主)	1
2.会社員・職員(正規雇用)	51
3.会社員・職員(非正規雇用)	2
4.公務員(正規雇用)	13
5.公務員(非正規雇用)	2
6.専業主婦(主夫)・家事手伝い	1
7.無職	2
8.学生・院生	31



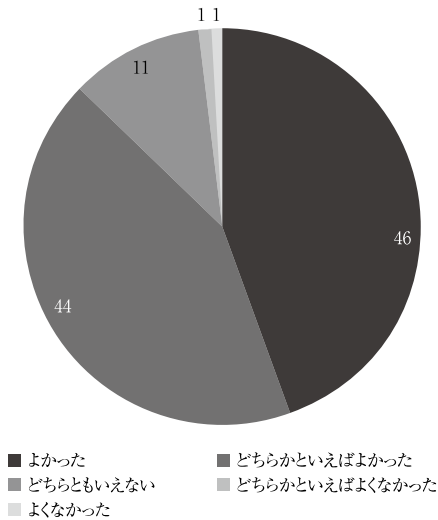
5 勤務先の業種

1.農林・水産・鉱業	2
2.建設業	0
3.製造業	7
4.電力・ガス・水道	0
5.情報・通信	5
6.商社	1
7.流通・小売	6
8.金融・証券・保険業	13
9.不動産業	3
10.コンサルティング	5
11.研究・高等教育機関	1
12.教育機関・学校法人	6
13.医療・福祉	4
14.広告・出版・印刷業	3
15.行政サービス	8
16.団体・組合等	1
17.サービス(上記以外)	7
18.その他	31



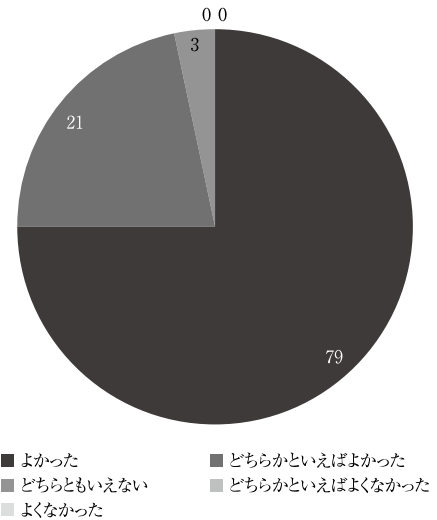
6 大学生とともに取り組んだ「円ダービー」について (R3.3 卒業者除く)

よかった	46
どちらかといえばよかった	44
どちらともいえない	11
どちらかといえばよくなかった	1
よくなかった	1



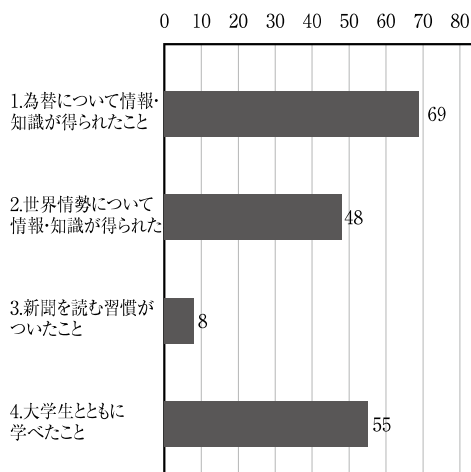
8 大学生とともに取り組んだ「企業研究」について

よかった	79
どちらかといえばよかった	21
どちらともいえない	3
どちらかといえばよくなかった	0
よくなかった	0



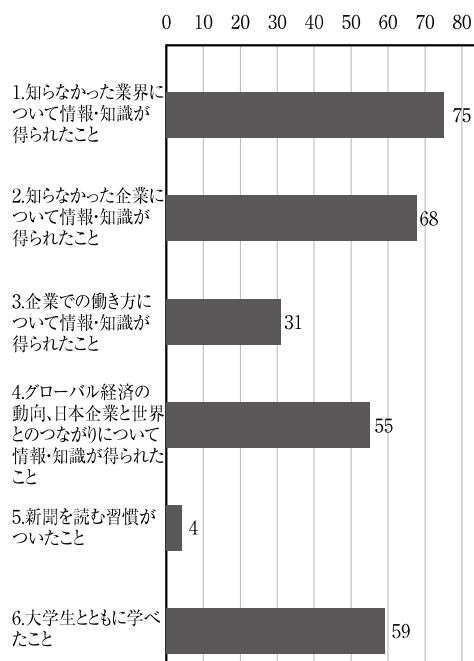
7 大学生とともに取り組んだ「円ダービー」についてよかった点 (複数回答可)

1.為替について情報・知識が得られたこと	69
2.世界情勢について情報・知識が得られたこと	48
3.新聞を読む習慣がついたこと	8
4.大学生とともに学べたこと	55



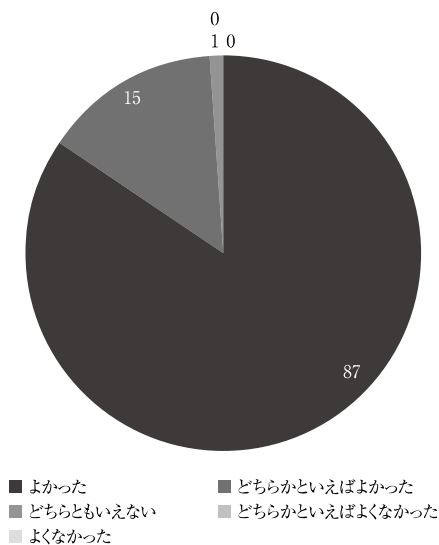
9 大学生とともに取り組んだ「企業研究」についてよかった点 (複数回答可)

1.知らなかった業界について情報・知識が得られたこと	75
2.知らなかった企業について情報・知識が得られたこと	68
3.企業での働き方について情報・知識が得られたこと	31
4.グローバル経済の動向、日本企業と世界とのつながりについて情報・知識が得られたこと	55
5.新聞を読む習慣がついたこと	4
6.大学生とともに学べたこと	59



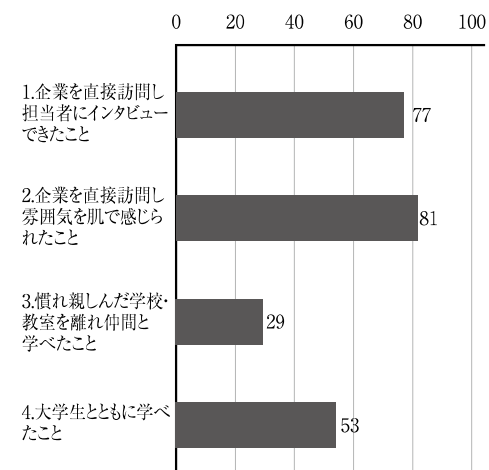
10 大学生とともに行った「企業訪問・インタビュー（オンラインを含む）」について

よかった	87
どちらかといえばよかった	15
どちらともいえない	1
どちらかといえばよくなかった	0
よくなかった	0



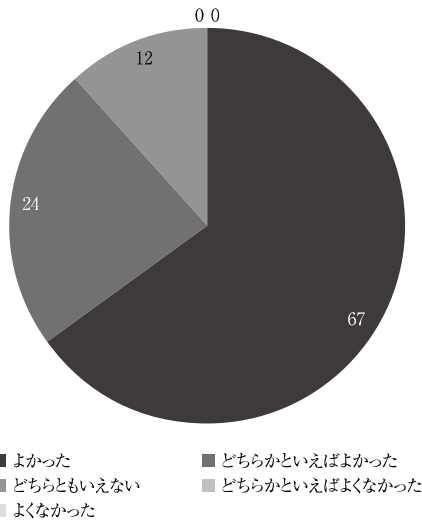
11 大学生とともに行った「企業訪問・インタビュー（オンラインを含む）」についてよかった点（複数回答可）

1.企業を直接訪問し担当者にインタビューできたこと	77
2.企業を直接訪問し雰囲気を感じられたこと	81
3.慣れ親しんだ学校・教室を離れ仲間と学べたこと	29
4.大学生とともに学べたこと	53



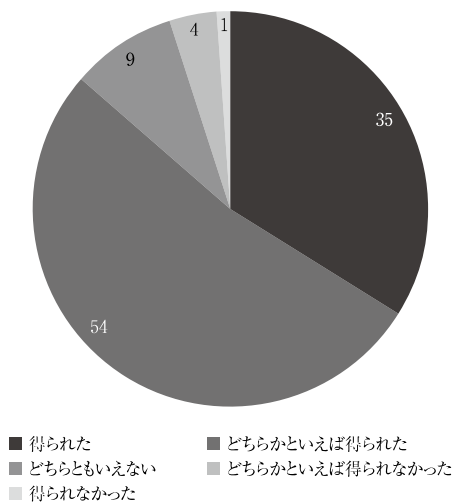
12 「企業訪問・インタビュー」の後、大学生とともに訪れた施設・企業見学について（R3.3 卒業生除く）

よかった	67
どちらかといえばよかった	24
どちらともいえない	12
どちらかといえばよくなかった	0
よくなかった	0



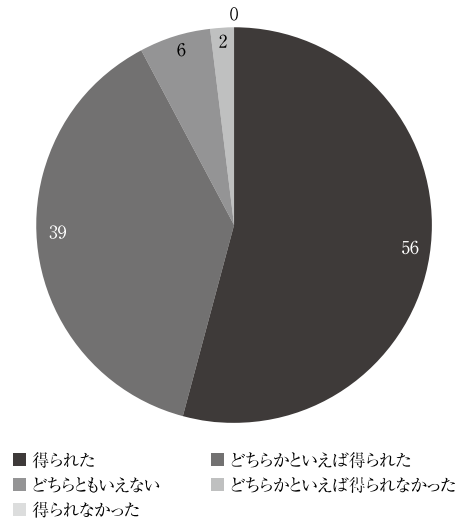
13 高大コラボゼミを通じて「論理的思考能力」を

得られた	35
どちらかといえば得られた	54
どちらともいえない	9
どちらかといえば得られなかった	4
得られなかった	1



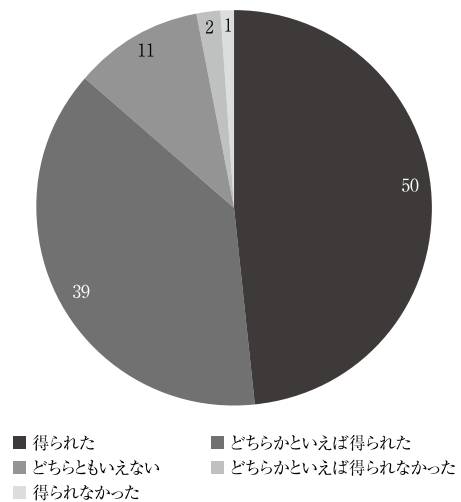
14 高大コラボゼミを通じて「情報収集・分析能力」を

得られた	56
どちらかといえば得られた	39
どちらともいえない	6
どちらかといえば得られなかった	2
得られなかった	0



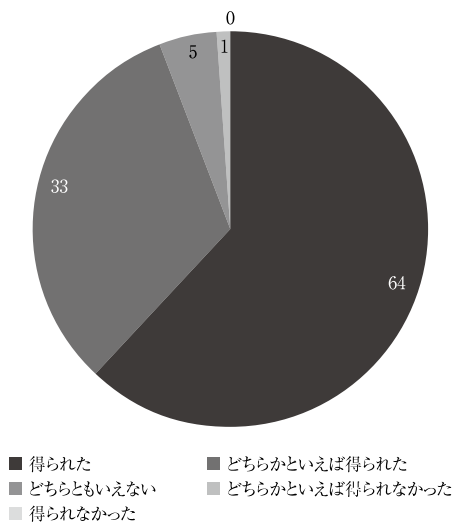
15 高大コラボゼミを通じて「コミュニケーション能力」を

得られた	50
どちらかといえば得られた	39
どちらともいえない	11
どちらかといえば得られなかった	2
得られなかった	1



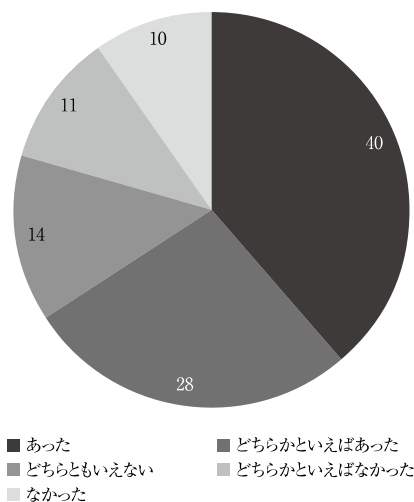
16 高大コラボゼミを通じて「プレゼンテーション能力」を

得られた	64
どちらかといえば得られた	33
どちらともいえない	5
どちらかといえば得られなかった	1
得られなかった	0



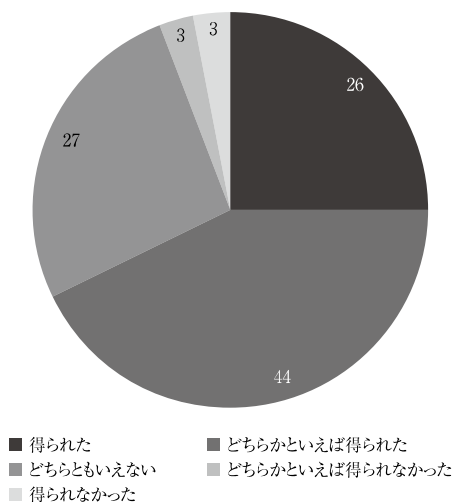
18 高校卒業後の進路選択に「高大コラボゼミ」が与えた影響について

あった	40
どちらかといえばあった	28
どちらともいえない	14
どちらかといえばなかった	11
なかった	10



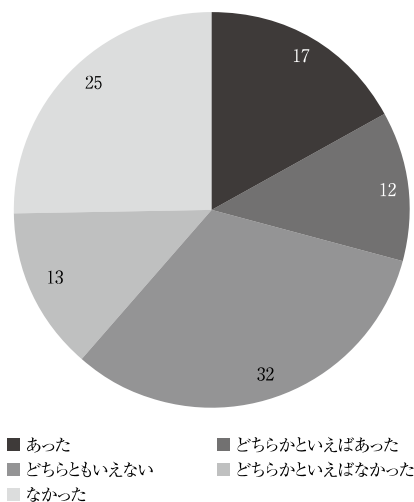
17 高大コラボゼミを通じて「リーダーシップ能力」を

得られた	26
どちらかといえば得られた	44
どちらともいえない	27
どちらかといえば得られなかった	3
得られなかった	3



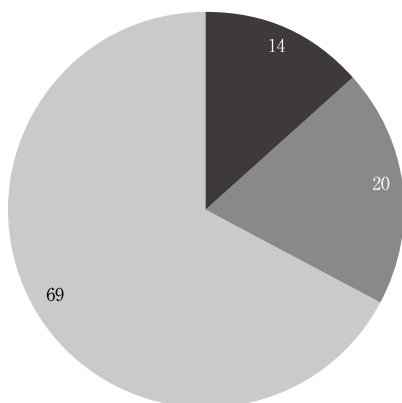
19 職業選択に「高大コラボゼミ」が与えた影響について

あった	17
どちらかといえばあった	12
どちらともいえない	32
どちらかといえばなかった	13
なかった	25



20 高校卒業後、現在までの「英語学習」について

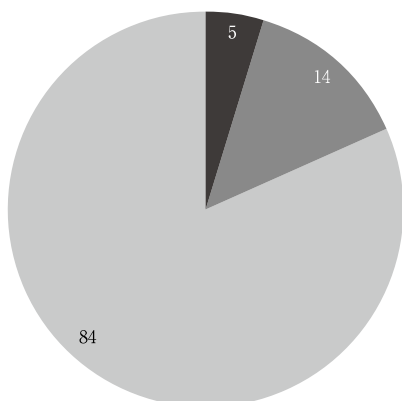
1.現在も続けTOEICなどを定期的に受検している	14
2.現在も様々な形で続けているが、TOEICなどを定期的に受検していない	20
3.大学・短大等卒業後、英語学習から遠ざかっている	69



- 1.現在も続けTOEICなどを定期的に受検している
- 2.現在も様々な形で続けているが、TOEICなどを定期的に受検していない
- 3.大学・短大等卒業後、英語学習から遠ざかっている

21 「高大コラボゼミ」でともに学んだ大学生との交流について

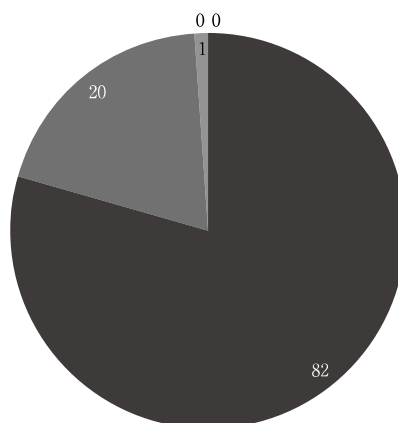
1.現在も連絡を取り合っている	5
2.高校卒業後、しばらく連絡を取り合っていた	14
3.高校卒業後の交流はない	84



- 1.現在も連絡を取り合っている
- 2.高校卒業後、しばらく連絡を取り合っていた
- 3.高校卒業後の交流はない

22 高校時代に「高大コラボゼミ」に参加して

よかった	82
どちらかといえばよかった	20
どちらともいえない	1
どちらかといえばよくなかった	0
よくなかった	0



- よかった
- どちらかといえばよかった
- どちらともいえない
- どちらかといえばよくなかった
- よくなかった

23 「高大コラボゼミ」についての意見や要望など（自由記述）

◎大学生になってから、改めて貴重な経験を沢山させてもらったなど実感しました。例えば大学ではプレゼンの機会が多いので、高校時代の経験がとても役立ちました。大人の人と話すときも、自分の経験に自信を持って語れることが多いです。

◎企業研究は将来就職活動をして行く上でとても重要になってきます。学生と違ってなかなか後戻りするのも難しくなります。なのでこういったコラボゼミに参加することで今は関係なくても今後必ず活かせる時が来ます。楽しみながら経験を積んでください。

◎当時は非常に忙しい毎日を送っており、大変なことも沢山ありましたが、あの頃、あの歳だったからやり遂げられたとののではな

- いか、と今になってふと思うことがあります。高校生の頃から PowerPoint での発表やデータ処理などを経験したため、大学に入ってからのプレゼンなどが非常に気楽に感じられます。このような経験は普通の学生では中々体験することができないと思うので、今後も継続していただきたいです。
- ◎就活中、就職後、共にコラボゼミでの経験が非常に役立っていると感じています。コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力など大学生活で培われたものありますが、ベースはコラボゼミだったと思います。また、入社直後からパワーポイントやエクセルなどは使えましたし、資料作成などの部分でも役立っています。
- ◎多くのことを詳しく学ぶことができたのも良かったですが、大学生や大人の中に混ざり意見を述べる機会を得ることができたのがとても貴重な経験だったと思います。
- ◎高校生のうちに大学生と関わり、今まで知らなかった分野のことを知れたことは、とても大きな経験と自信になりました。今後、この活動が続いて行ってほしいです。
- ◎何をしたかなどはあまり覚えてませんが、大学生と関わることで大学生への憧れが強くなったので、受験勉強とかにも影響したかもしれない思い出しました。
- ◎卒業後、パワポを使ったプレゼンをすることが多かったが、パワポの作り方を高校で教わったからこその人と比べてパワポのクオリティに差をつけることができた。教授からもうまいと言われてとても気分が良かった。株について触れる機会をもう少し増やしてもいいのではないかと思う（株などは今ブームになりつつあるため）。
- ◎高校生として現役の大学生と一緒にグループワークをすることは説明会で聞くような大学のふんわりとしたイメージとは異なっていて、かなり確度の高い自分の目指す大学生像を描くことが出来ました。また高校生のうちから経済や政治関連の基礎知識を得られたことで、その後専攻することになる政治経済へのスムーズな理解と興味を掻き立ててくれました。コラボゼミでは人生で初めて「能動的に目的を持って情報収集を行う」ことをしたことで、大学生になったあとも自分の興味関心に従って情報収集を続けたことで多くの学びを得ることが出来ました。コラボゼミを出発点にした情報収集能力は巡り巡って大学院進学へと繋がり、今では独自の研究をするために様々な文献や先行研究を探す知的活動に勤しむことが出来ています。これからコンサルティング会社への就職が決まっており、そこでも課題発見と最適な解決策を導き出すために今まで培ってきた情報収集能力を活用していきたいと思っています。
- ◎知識の幅を広げることができること、日常で当たり前経験できないことを経験できることが良いと思った。
- ◎大学生と関われる機会があったことが良かった。大企業の人と直接話す機会はなかなかないので経験できて良かった！
- ◎大変申し上げにくいですが、学んだ知識についてはほとんど忘れてしまいました。ですが、クラスメイトと共に学んだ日々、得た経験は私の財産であり、自信につながっております。現在は就職し、学生という立場を離れましたが、あの充実した日々はふとした時に思い出し、高校生の皆さんにも体験して欲しいと心より思っております。担任をしてくださった黒田先生、一條先生をはじめ関係者の方々に心よりお礼申し上げます。

- ◎高校生のうちから大学生とディスカッションをすることで論理的思考力が身につく、一般的な同級生よりも先に進んでいる感覚が自信につながった。当時、英語学習の重要性について学ぶことができたが、実際には行動に移すまでには至らなかった。英語学習のプログラム強化をしていただきたいです。
- ◎充実した唯一無二の経験ができました。今も当時の大学生とは交流が続いています。
- ◎正直、今の職業にはコラボゼミで学んだことは活かされていないですが、人生における経験としてはとても大きな糧になりました。
- ◎普通の高校生では得られないような体験ができる素晴らしい機会だったと感じています。現在はコラボゼミで得た知識などを活かしていない自分を悔しく思うほどです。現役の高校生、大学生達がコラボゼミ通じて学んだことをより良く活用できるよう、ご指導頂ければと思います。
- ◎僕は高大コラボゼミに参加する事ができて心からよかったと思えます。あの頃の経験があつて今があると思っており、今後是非継続して行って欲しいと本気で思っています。その上でコメントさせていただきます。単刀直入に言うと僕は「高大コラボゼミ」というキャッチーさに惹かれて1組に入る決断をしたと記憶しています。何かを思って行動する事は素晴らしい事ですが、動機が少し主体性に欠けるというか、「ここに入るとちょっとかっこいいかも。」という思いがあつたかもしれません。それを踏まえて今僕が思うのは、「なぜ高大コラボゼミというものが存在するのか」「なぜ高経附でそれをやるのか」といったような理由をきちんと解釈し自分の中で納得のいく理由を持った上で参加できていれば、個人としてもチームとしても、また高校や大学にとっても良いものになったのではないかと、と反省のような後悔のような思いがあります。現在そういう事も踏まえて先生方はアクションを起こしているかとも思いますが、あくまでも数年前の自分を振り返ってみて感じた事を述べさせていただきました。高経附生徒の今後の活躍を応援しています。(僕も頑張ります)
- ◎とても良い経験になったと感じます。大学に入ってプレゼンテーションをする機会が多くあるのですが、パワーポイント等だけでもスムーズに進めることができます。また班での活動においては、自分だけではなく周りに仕事を与えること、そしてみんなで協力することの大切さをいかせているように感じます。
- ◎普通に生活していたのでは注目すらしなかったであろうことをたくさん学ぶことができ本当に良かったと思う。私たちの代ではコロナの影響でコラボゼミが行えるのか不安もあつたけれど、多くの人の協力があつて成果発表までやらせていただけて本当に良かった。ありがとうございます。数え切れないほどたくさんのことを学べたと思います。この活動がこれからも長く続いていくことを祈っています。
- ◎途中からコラボゼミに参加したこともあり、少し周りについていけないかもしれないと感じることもありましたが、良い経験になったので特に高校生はみんな積極的に参加すると良いと思います。
- ◎次回までにやってくる、という課題で、やる事が多量過ぎる回があつたので日程の調整が必要だと思った。
- ◎自分の知らなかった経済のことについて、

- 自分たちよりも知識の差が大きい大学生と共に学べて良かったです。
- ◎ほとんど遠慮なくなんでも言い合える仲間ができて幸せでした。
- ◎私が答える必要のない選択肢である質問 5, 質問 6, 質問 7, 質問 12, 質問 19 は必須の質問として設定されていたため、答えないと送信できませんでした。そのため、この5つの質問をすべて1番上の選択肢にして提出しました。
- ◎良い経験になりました。
- ◎あらゆる場面で自分に自信を持てます。オナークラスとしてコラボゼミに参加でき、本当に良かったです。
- ◎コラボゼミで得られたことはたくさんありますが、企業研究や企業訪問をしたことで、就活の際にも役立ち、良い経験ができたと思う。
- ◎高校卒業後も定期的に意見交換（現在の仕事に関してなど）をできる機会があれば、また新しい発見や意見の共有ができ刺激を受けられると思う。現在はこのような状況のため、オンラインで行うのも有りだと思う。高校を卒業しても同級生数人とは連絡をとり、大学・仕事が違うからこそ学ぶことは多い。高大コラボゼミ出身者でそのような学びの場を作ることができれば、より様々な職種を理解でき自己のステップアップにも繋がるのではないかと思う。これは実現するにはかなり難しいとは思いますが。私の願望、こうであつたらいいなと思ったことを書きました。
- ◎難しいことを大学生や企業を通じて知っていくことで、学ぶ意欲を育ててもらいました。また、元々勉強は好きではなかったのですが、思い切って飛び込んで自分からプレゼンに立候補したりすることで、積極性も身につきました。これらは私の大学選択にも影響を与えています。生徒自らチャレンジする場をこれからも大事にしてあげて欲しいです。たくさんのことを学ばせていただき感謝の気持ちでいっぱいです。
- ◎クラスメイトとしての繋がりも深くなったと感じるので、とても良い機会でした。
- ◎高大コラボゼミをやりきったことが自分の自信になり、大学受験でのモチベーションにも繋がりました。5と19の選択肢は私が答える必要のない設問でしたが、選択しないとアンケート送信ができない設定のようなので回答しました（5と19の回答は無効でお願いします）。
- ◎コラボゼミというチャレンジの中で、私自身得るものも多かったですが、客観的に過去を振り返れる現在、アンケートの機会があり、当時不安だった一意見を書きます。率直に言って私の班の担当となった大学生はやる気がありませんでした。コラボゼミの出席率が低いことや遅刻をしてくることのほか、連絡を取ろうとしても返事が来ないとか、課題をそのまま丸投げ等も多くありました。実際、大学生の間でもチーム作成のときに仲良い同士で固まって、私のチームの大学生は言い方が悪いですが、あまりものなのだなど高校生の自分が認識できるほど、当該大学生と他の学生との距離感がありました。他チームが大学生と連携してうまくやっている話を聞いて、高校生チームのリーダーとしての他チームと比べてやるせなさとか、焦りを感じたり、うまくいってるチームに嫉妬している自分に気づいて、傷ついた記憶があります。自分自身も大学生を経験した現在、その当時の大学生の心境を想像、理解することはできてもやっぱり嫌な気持ちは割と残っていま

す。自分は真面目だったので、大学生のフォローがない状態で、他のフォローのあるチームと比べられる発表をすることがストレスになってました。チームに相談しやすい仲のいい子がいればまた違ったのかもしれませんが、高校生側のチームはランダムだったので、私が勝手に1人で抱えてました（実際は他の子も色々抱えてたのかなとは思いますが）。仕方ないと言えば仕方ないのですが、高校生は多感な時期なので、どうぞ見守ってあげて欲しいと思います。当時、先生とか教授等にそんなことは言えなかったのも、何か汲んであげられる制度があればいいな...と思います。（ちなみに、他チームの大学生から、あいつだと大変でしょみたいなことを言われたことはあります。）

◎職業選択には影響しませんでした。就職後にはとても良い経験として色々なシーンで語れる経験になりました。今思えばあれもこれもと注文をつけたくりますが、高校生の時にできる経験としては最高だったと思います。大学生との交流のみならず、企業で働くリアルな声が、企業訪問などかしまった機会以外で定期的に設けられるとより刺激的な時間になると思いました。

◎目に見える力と言うよりは、年の近い年上と関われる、学生期間のコンサルタント的な印象が強いです。総じて、楽しく好意的な記憶でした。能力としては、非認知的なものが多くて、テキストに起こせないのが少し歯がゆいですが、振り返れば登った坂が、目の前には灯火が常にあった。よいスキルアップ期間でした。（いい子ちゃんコメントすみません！）